

**長野式臨床研究会**  
**平成19年 マスタークラス 東京セミナーQ&A**  
第5回 平成19年10月28日分 講師 長野康司  
長野式臨床研究会ホームページ <http://www.naganoshiki.jp/>

**質問1 肝実で数脈の場合の肝実処置の場合、留鍼は行うのですか？**

留鍼はせず、ひと経穴ずつ刺鍼（入念に雀啄）を行います。刺鍼の順序は足部（下位）の経穴から心臓に近い方へと刺鍼を行います。

**質問2 「胆石」の治療に胆嚢点を使用することはありますか？**

「胆道ジスキネジー」に対して使用をしていましたが、最近は使用していません。

**質問3 臨床上で、「26歳、女性（肥満型）主訴：肩部・頸部の凝り  
脈状：沈・遅 腹証：期門（+）行間（+）左天枢（+）の場合、  
肝虚と肝実のいずれの証と診るべきでしょうか？**

脈状と腹証が相反していますので、「逆証の脈」と云う事になります。この場合、腹証を重視しますので「肝実」と診ます。

**質問4 刺鍼により補瀉を行う場合、流注に沿って行うことはあるのですか？**

刺鍼に於いては直刺で、抜鍼して後を閉じるか、閉じないかで補瀉を行いますので、流注は特に気にせず行ってください。